

い し ず え

全損保日勤外勤支部 東日本合同職場会ニュース 08 - 33

2008年 4月25日 (発行) 首都分会組対部

労働組合の役割

4月23日(水)、東京駅丸の内北口に於いて、支部組合員など24名の参加により「丸の内街宣行動」が行われました。ずいぶんと日も伸び、寒さも和らいだ丸の内、新入社員や就職活動の学生と思われる若者等に500枚のピラを手渡しました。中には足を止め、東京海上日動火災に何が起きているのかと、訴えを聞く人や、励ましの言葉を掛けて下さる方もいました。これから、季節も人の流れも街宣行動に最適な時季になります。株主総会に向け、社会的に東海日勤経営を包囲し、外勤社員制度廃止を撤回するまで、がんばりましょう。

4月18日(金)は、「国民生活破壊の金融政策をやめさせ、地域経済と暮らしを守る4・18統一行動」が行われました。風雨激しいあいにくの天候でしたが、財務省前行動や金融三争議の東京海上日動火災、AIGスター生命、日産センチュリー証券本社前抗議行動が行われました。また、当日は「東京争議団総行動」とも連帯されており、「ネスレ日本」東京支店前行動では、家族を介護中のネスレ従業員の「転勤無効」が最高裁で確定した報告を受け、「ネスル労組」の仲間と共に喜びを分かち合いました。

夜は、航空、食品、保険と、国民生活の安心・安全を担う産業の労働組合代表と、「暮らしと経済研究室主宰」山家悠紀夫氏がパネリストを務める、全損保シンポジウム「この職場から日本の安心・安全は守れるか」に参加しました。

「規制緩和」により、安全と雇用の破壊を生み出す情勢の中で、労働組合は、労働者の雇用と生活を守るだけでなく、社会的役割を軽んじ、競争に翻弄する経営を正し、民主的な産業を守る役割も担っていることを学びました、また労働者も「働く質」を守り、現場で頑張ることで日本も変わると学びました。

翌日の、全損保外勤部・春の学習会、坂口正明氏の講演「SOS!日本の食と農 いったい何が起きているのか」も大変興味深い話を聞くことが出来ました。